

巻 頭 言

事業管理者 病院長
金 戸 宏 行

「惑星直列」ということをご存知でしょうか？ 惑星が日食や月食のように完全に一直線に並ぶような印象を受けるのではないのでしょうか。もし惑星が2つだけなら、太陽に対して完全に一直線に並ぶ点は、その軌道上に2箇所存在しますが、太陽系において3個以上の惑星がほぼ一直線（5度以内）に並ぶことは、過去や未来のそれぞれ10万年範囲内まで観測できないほどの低確率で、いわゆる天文学的にありえないことだそうです。現実的には「惑星直列」には正確な定義はなく、1980年代には太陽からみて90度ほどの扇状の範囲に全惑星が収まっている状況でも「惑星直列」と騒がれたようです。不完全な形での直列は数十年にいちどくらいの頻度で生じるようで、次回は2040年9月に地球から見て水星、金星、火星、木星、土星と月が9度以内に集まるようです。残念ながら太陽の位置関係で実際には観察できないようです。本年度は医療界においてまさに、この「惑星直列」を迎えると言われています。診療報酬・介護報酬の同時改定、第7次医療計画の開始、医療費適正化計画は第3期計画が開始され、国保の財政運営の都道府県単位化への移行、第7期介護保険事業（支援）計画の開始など医療界の大きなターニングポイントが同時に集中する年度であります。大きなポイントであるがこそチャンスは多くあるはずで、このポイントでいかに時流に乗って進んでいけるかが医療業界にとって大きな課題であり、全医療関係者がそういったポイントであることの認識をもって取り組めば、業界の未来も明るいものになるかもしれません。

さて市立室蘭総合病院医誌はこのたび第43巻の発行となりました。今年は総説1編、4編の研究報告と2編の症例報告、病理解剖症例概要、CPCをはじめ、各種院内研究会・研修会記録、各部署の業務活動報告、年間業績集などが掲載されております。日常多忙な医療業務をこなしている若手医師のみならずベテラン医師からの投稿もありました。今後も本誌が若手医師たちにとって登竜門的な役割を担っていくこと、またベテラン医師からもさらに活発な投稿がなされることを期待します。最後になりますが、多忙な診療活動の中で執筆を担当された職員の皆様と本誌発行にご尽力いただいた編集委員の皆様に深謝いたします。